

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 静岡県伊豆市立天城中学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫
 中学校 中高一貫 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他
所在地 〒410-3215
 静岡県伊豆市月ヶ瀬853番地
E-mail a-jhs@school.city.izu.shizuoka.jp
Website <http://atjs.city.izu.shizuoka.jp/>
生徒数 男子53名 女子57名 合計110名
 生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、「ふるさと伊豆を多角的な視点で学び、伊豆が直面している課題を知るとともに、地域を活性化させ、持続可能な地域づくりのあり方を考える」を活動テーマとして、ESDを「持続可能な地域づくりを担う人材の育成と地域への提言のための教育」の基盤と捉え、ESDの実践を通して「多面的・総合的に考える力」「コミュニケーション力」「他者と協力する態度」の育成を目標とした。

具体的には、「共に生きる」、「地域のよさと課題を見つける」、「地域に根ざした生き方を考える」、「地域を持続可能にするためのヒントを見つける」「地域を持続可能にするための提言を行う」を柱に、①福祉体験学習、②自然体験学習Ⅰ、③自然体験学習Ⅱ（防災の視点を加えて）、④職場体験学習、⑤修学旅行、⑥地域学習を行った。

①福祉体験学習

お年寄りや障がいを持つ方とのふれ合いを通して、学校や家庭、地域社会で、共によりよく生活していこうとする意欲や態度を育むことをねらいとしている。具体的には、近隣の6つの福祉施設を訪問し、様々な交流や体験を行った。

②自然体験学習Ⅰ

伊豆半島ジオパーク推進協議会や天城自然ガイドクラブのご協力を得た。八丁池までのハイキングを行い天城の自然の豊かさを体感した。翌日はジオリアを見学して伊豆半島の成り立ちを学んだあと、旭滝、船原スコリア丘などの火山地形を観察し天城の成り立ちを自分たちの目で確認した。学校での火山の噴火のモデル実験では、身近な素材なども用いて、3種類もの実験を体験することができた。

③自然体験学習Ⅱ（防災の視点を加えて）

皮子平へのハイキングで自然のすばらしさを実感しただけでなく、シカの食害による森林被害を目の当たりにし大きな課題があることにも気づいた。火山によってでき多くのジオサイトをもつ伊豆半島の自然は、災害と隣り合わせの環境でもある。翌日は市防災課による避難所運営訓練、市赤十字奉仕団による炊き出し訓練、国土交通省沼津河川国道事務所による土砂災害講座、田方南消防署による消火・心肺蘇生・被災者運搬訓練など、防災の視点を加えた活動に取り組んだ。

④職場体験学習

旅館・ホテル・サービス業、林業（伊豆森林管理署）、製造業、販売業、こども園、消防署、FM局等の地元の事業所にお世話になり、「天城に根ざした仕事をしていくためにどのような工夫をしているのか」について学習した。「都会では味わえない空間を演出していること」などを学んだ。また、地元天城の魅力を活かした製品の販売を行うために、様々な工夫をしていることに驚きを感じた。

⑤修学旅行

「昔も今も持続発展している古都の魅力を探れ」というスローガンのもと、古都、観光都市としてずっと持続している奈良・京都の魅力を探った。班別研修では、外国人に京都の魅力は何かを聞くためにインタビューを行った。英語の授業で準備した質問をするとともに、一緒に写真を撮るなど、国際交流を積極的に行った。また、京都らしい食べ物や飲み物を、積極的に味わうよう心がけた。京町家の見学や宿坊への宿泊体験を行い、伝統的な建築物の保存と活用について考えた。

⑥地域学習

「自分なりの解決策を見つけ、行動する」ために、最後のインタビュー・調査活動を行った。個人またはグループで課題を設定し、地域で探り、整理してまとめた。（「レンタル着付け」「町家見学からの空き家の活用」「映画のロケ地調べ」「サイクリング」「旅館のおもてなし」「東京オリンピック・パラリンピック」「天城道路の完成」「伊豆市総合計画」「服のチカラ」「地形立体模型づくり」「農業の可能性」「フリーペーパーくるら」「伊豆日日新聞」「他市の研究（熱海市など）」「伊豆市の福祉」「自然・森林」「ふるさと納税」「鮎釣り」「ごみ拾い（クリーンなまち）」「わたしたちのESD」など）



①福祉体験事前学習



②火山の噴火実験



③避難所設営訓練



④国有林での職場体験



⑤修学旅行事前学習



⑥服のチカラ

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他	

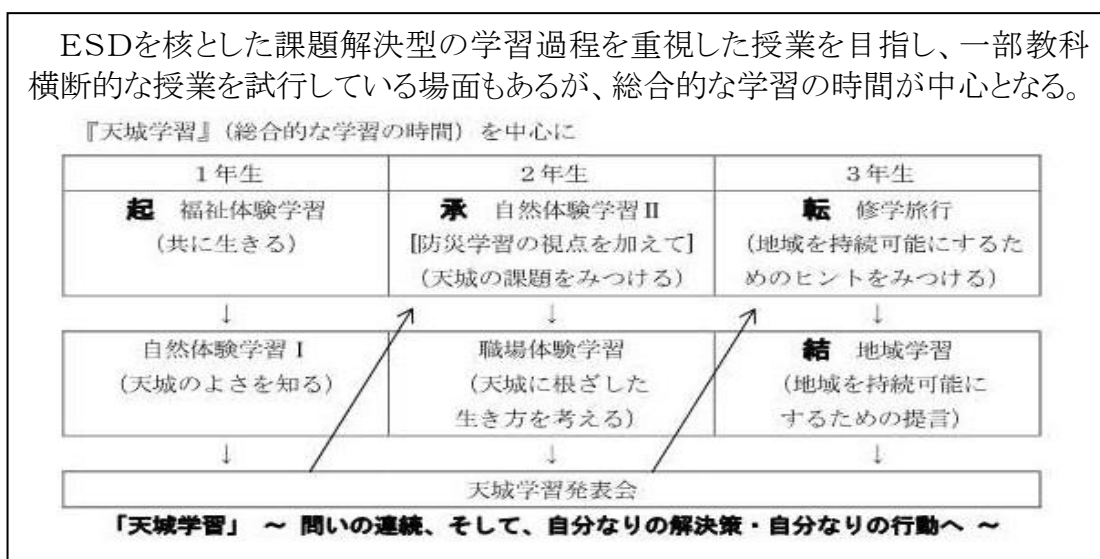
ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

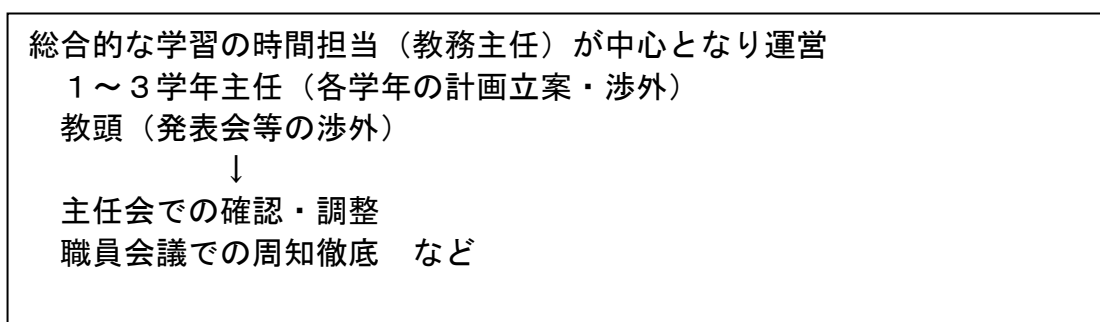
エ. 使用した教材

外部講師が用意して下さったパワーポイント資料 など

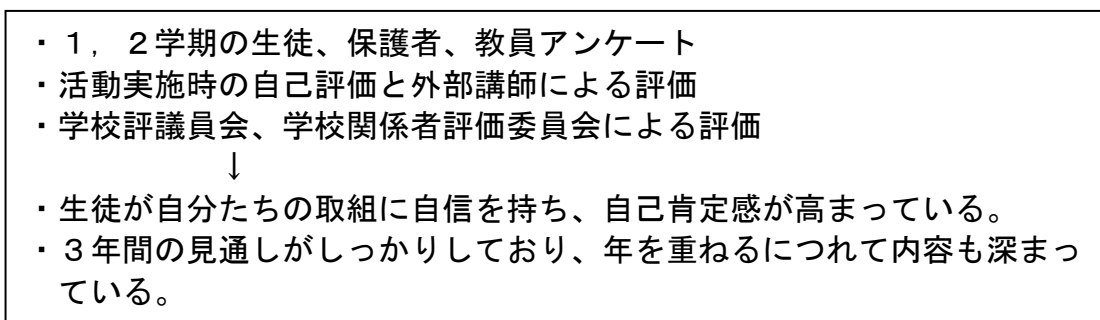
- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。



- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。



- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。



- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

毎年12月に「天城学習発表会」を行い、地域はもちろん、全国各地からの参観者に成果を発表している。さらに本年度については、5月に常陸宮様をお迎えして行われた「全国野鳥保護のつどい」で生徒会代表生徒が「天城学習」の成果を発表する機会をいただいた。11月には「インド教職員招へいプログラム」で全校生徒がインドの教職員の皆様と交流する機会をいただいた。12月には「全国小中学校環境教育研究大会（静岡大会）」で代表教員が口頭発表の機会をいただいた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

校長や総合的な学習の時間担当を中心に、積極的に連携を行った。
8月24日には本校において「ESD実践研究会 in 伊豆」を開催した。
11月24日～25日のESD推進ネットワーク全国フォーラム（東京）に校長が参加し、自校の取組の発表を行った。
12月9日に実施した「天城学習発表会」では、ESDふじのくにコンソーシアムのプロジェクトリーダー静岡大学の梅澤教授に講評をお願いし、土屋静岡県副知事にも壇上でのご挨拶をいただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

静岡県磐田市立豊田中学校との交流

- ・ ESDの取組について教員同士の情報交換
- ・ 天城中生徒から豊田中校長へのインタビュー実施
- ・ 豊田中教員が「天城学習発表会」を参観

静岡大学との交流

- ・ 「天城学習発表会」講評の依頼
- ・ 静岡大学学生の研究への協力

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

本校がESDに取り組んだきっかけの一つは、生徒の自己肯定感の低さの解消をめざすことだった。平成29年度全国学力・学習状況調査において、「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して「1. 当てはまる」と応えた生徒は、全国平均を30%近く上回った。また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」に対して「1. 当てはまる」と応えた生徒も、全国平均を10%以上上回っており、確実にめざす生徒の姿に近づいている。

（3）平成30年度の活動計画

【ESDを基盤とした天城学習のねらい】

ふるさと伊豆を多角的な視点で学び、伊豆が直面している課題を知るとともに地域の活性化というテーマで持続可能な地域づくりのあり方を考えることにより、「多面的・総合的に考える力」や「コミュニケーション力」、「他者と協力する態度」などを身につける。

【学習活動】

（1年）地域の福祉施設での体験を通して思いやりの心を育て、よりよい生き方や共生の意味を考える。天城山への登山を経験することにより、天城山のすばらしさに気づき、天城山を愛する心を育む。

（2年）天城山のすばらしさだけでなく、抱える問題についても理解を深め、防災の視点も加えて、地域の自然を持続するための方法を考える。地域を支える仕事や産業について考え、地域が現在の経済を維持し、持続可能な発展をするためには何が必要かを体験をもとに考える。

（3年）観光地である奈良京都への修学旅行を通して観光地である自分たち地域の課題を知り、その解決策を地域の機関に出向いて調査し、市長に提言する。